

神戸学院大学有瀬図書館
2019年1月12日発行

Meridian

展示会通信第48号

第46回有瀬図書館ギャラリー展

プログラムにみる神戸の映画館



2018年12月15日(土)～2019年3月30日(土)

開催場所：神戸学院大学有瀬図書館
本館2階 エントランス展示コーナー

* 開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP・掲示にて、ご確認のうえご来館ください。

神戸は日本で最初に映画が輸入された都市です。かつて湊川
新開地を中心に多くの映画館が存在していました。

「能間義弘映画館プログラムコレクション」や関連資料・文献から、
神戸の映画館街の最盛期を回顧します。

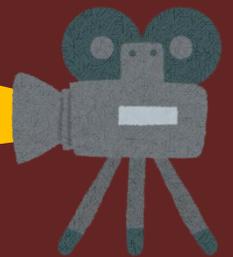
共催：神戸学院大学人文学部研究推進費

「ノンフィルム資料を用いたトーキー移行期の興行に関する再検討」

(代表・上田学)

協力：比較文化専攻演習I(2017年度)、実践演習II、人間文化実践I、

博物館情報・メディア論(以上、2018年度)の履修学生(人文学部)



○神戸と映画○

神戸は、日本映画史の始点として知られています。1896(明治29)年にキネトスコープが、
1897(明治30)年にシネマトグラフが相次いで神戸港から輸入されました。また1923(大正
12)年の関東大震災後の神戸は、東京に代わる外国映画の輸入配給や映画文化の拠点
として、日本映画史において重要な役割を果たしました。



『ファーストナショナル』3～7号

ファースト・ナショナル映画会社、1926～27(昭和2～3)年

○湊川新開地の映画館街○

神戸の湊川新開地は、古典と舶来、高級と低俗が同居する、独特な興行街を形成していました。たとえば、キネマ倶楽部のように外国人や知識人を想定して、英語のプログラムを発行する洋画専門館がある一方で、相生座、菊水館、第二朝日館、松竹劇場といった、邦画封切館も集まっており、その多様性が同地の魅力でした。



能間義弘映画館プログラムコレクション



絵葉書「湊川水族館」
神戸市水産会、1930（昭和5）年



キネマ倶楽部プログラム 3種
1922（大正11）・1923（大正12）年



倶楽館優待券
大阪朝日新聞社神戸支局、1933（昭和8）年

○家庭の映像文化○

戦前に映像文化が存在したのは、湊川新開地のような映画館街だけではありませんでした。明治期には幻灯、大正期から昭和前期にかけては9.5mm等の小型映画や、玩具映画といった、家庭用の光学機器が普及していきます。それらはやがて、戦後に8mmやBeta、VHSといった、個人が消費する映像文化への発展の土壌となりました。



玩具フィルム用映写機

孔雀カメラ写真店製、昭和初期



幻灯機とスライド

戦前



レフシー箱型映写機と紙製フィルム

昭和初期



展示の様子



編集後記

神戸と映画の歴史は、密接な関係があります。

最初に映画が輸入された神戸から、日本映画史ははじまりました。

この展示は、比較文化専攻演習I、実践演習II、人間文化実践Iの履修学生と調査を重ねた成果です。

現在の湊川新開地も、三つの映画館が存在し、かつての映画館街の名残りを感じられます。いくつかのモニュメントもありますので、ぜひ訪れて、神戸と映画の関係への理解を深めてください。

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第48号

2019年1月12日発行

発行・編集:神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL:078(974)4584 E-mail: pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL: <http://opac.kobegakuin.ac.jp/>